

『アンネの日記』破られる

都内図書館 関連書籍含め

東京都内各地の図書館で、『アンネの日記』や関連書籍が破られるなどの被害が続出しています。分かっていただけで、新宿、杉並、中野、豊島、練馬各区と東久留米、西東京両市の公立図書館で250冊以上に被害が及んでいます。

最も被害が多かった杉並区では、区内に13ある図書館のうち11館で確認されています。初めて気づいたのは今月6日。12日現在で119冊に及んでいます。同区は12日に被害届を出しました。中野区では、全8館中5館で約50冊に被害が出ました。被害が判明した6日に被害届を出しています。

区内に七つの図書館がある豊島区では、練馬区からの照会を機に全館で調査したところ、1館で5冊の破損が分かりました。

同館では、昨年2月にも書架整理をしていた職員が破られている書籍3冊を見つけています。その後、区内全館で調査したところ、別の1館で新たに2冊の破損が判明。さらに、同年5月には、利用者から「切り取られている」と申し出があり、2冊の破損が分かっています。

豊島区では「たまたま職員が書架整理していて発見したのが昨年2月ということ、いつ破られたかは分からない」といいます。西東京市では1月22日、「破れていますよ」という利用者の指摘で被害が判明。市内全7館を調

査したところ、2月1日までに3館で10冊の毀損（きそん）書籍を見つけました。「10ページ、20ページまとめて手で引きちぎったようです。こんなことは初めて」と幹部職員が話します。杉並区の井出隆安教育長は「知の財産を共有する場所である図書館においていかなる理由においても、図書を意図的に毀損することは許されない行為」とコメントしています。日本図書館協会の山本宏義副理事長も「図書館にかかわる者として大変残念だ」と話しています。

『アンネの日記』 第2次世界大戦中、ナチス・ドイツの迫害を逃れて隠れ家生活を送っていたユダヤ人少女アンネ・フランクがのこした日記。2009年、ユネスコの世界記憶遺産に登録されました。

2014年2月22日(土)

安倍内閣の 「総合推進法案」 病床削減 要支援外し 医療・介護 セットで改悪 消費税増の口実破たん

安倍内閣が12日に国会に提出した「医療・介護総合推進法案」は、介護と医療について大幅な負担増と給付減を盛り込んだ重大な法案です(表)。「消費税増税は社会保障のため」という言い分がデタラメであることを浮き彫りにしています。

介護では、「要支援者」向けの訪問・通所介護を、市町村の事業に丸投げします。事業費には上限を設け、ボランティアに委ねるなど費用を徹底削減します。専門職による支援を受けられない高齢者が続出し、重度化に拍車をかけるだけです。

利用料の引き上げや施設入所者の居住費・食費の補助縮小、特養ホーム入所者を原則、要介護3以上に限定するなど「介護難民」を深刻にする内容です。

現行制度の破綻

一方、低所得者の保険料軽減として、介護費の公費負担とは別枠で最大1300億円(2015年度)を投入。費用の5割を保険料で賄うという現行制度の破綻を事実上認めた形です。

しかし、介護費用が増えれば保険料が自動的に上がる仕組みは変えないため、公費負担を抜本的に引き上げないと介護を保障することはできません。

医療では、「機能分化」の名で、看護師配置が手厚い「急性期病床」を削減し、「患者追い出し」を強引に進める構えです。「7対1病床」(患者7人に看護師1人)

医療・介護総合推進法案の主な内容	
医療	
入院ベッド	都道府県が地域医療ビジョンを策定し、医療機関が協議して削減・再編を進める。知事による強制措置も導入
人材対策	看護師に医療行為を委ねる制度導入
医療事故	第三者機関による調査制度
外国人医師	外国人医師による診療の緩和
介護	
要支援者向けサービス	訪問介護と通所介護を市町村の事業に移して費用を削減
特別養護老人ホーム	新規入所者を要介護3以上を原則限定
利用料	1割→2割に引き上げ。合計所得160万円(年金収入280万円以上)が対象
施設入所者補助	居住費・食費の補助を縮小。貯金1千万円(夫婦で2千万円)以上は対象外

は、2年間で36万床のうち9万床も減らす計画です。

「病床機能報告制度」をつくって病床を「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」に再編。都道府県が必要な病床数などを盛り込んだ「地域医療ビジョン」を策定し、医療機関を交えて役割分担や病床の再編を協議します。

「医療機関の自主的な取り組み」が基本ですが、協議が進まない場合は知事が病床削減や増床の中止を要請・勧告し、従わない場合は補助金を交付しないなど安上りの医療提供体制を強引につくる方針です。

安上がり「ケア」

医療・介護が連携してサービスを提供する「地域包括ケアシステム」の構築」の名で、都道府県に基金をつくらせて医療機関や介護施設に対する補助などを行うとしています。

しかし、「地域包括ケア」は安上がりの医療・介護をつくるのがねらいで、柱とされる「24時間地域巡回型サービス」が始まった自治体はわずか1割です。介護や医療が必要な人をサービスから締め出す根拠はまったく崩れています。「医療難民」「漂流高齢者」を増やすだけで、地域で安心して生きていくことをますます困難にするだけです。

法案にはこのほか、医師が行うべき医療行為を看護師に研修だけで肩代わりさせることや、第三者委員会による医療事故調査制度なども含まれています。

法案ごとに徹底審議すべき重大な内容を一本化したもので、まともな国会審議抜きに成立させるねらいです。

法案の問題点が国民のなかに明らかになるのを安倍内閣と厚労省がいかにも恐れているかを示しています。

2014年2月19日(水)

2014, 2, 25 NO, 646
日本共産党
磯城郡議員団だより

芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 862-7 0745-43-2415
吉田 容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 113-5 090-5257-4446
森 良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 281-1 0744-33-8570
(事務局) 池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 440-5 0745-43-2661

予算編成方針

三宅町の平成26年度予算編成方針についてという文書が12月3日作成され、職員には配布されています。議員や住民には2月の中旬にやつと請求して配布されました。どうしてこの様なことが起きるのでしょうか。議員や住民軽視ではないでしょうか。

平成26年度予算編成方針で本町の財政事情等について「町政における行政改革及び財政健全化に向けて平成23年〜25年の3か年において第2次集中改革プランを実施してきた。」「24年度は実質収支が黒字。健全化法で実質公債費率が7・1%になり、改善方向にあるが、地方交付税が前年度比3千9億円減の16兆7615億円に

されていることから本町の交付税も減少することが見込まれる」と言っています。

一方、26年2月に「三宅補助金仕分け委員会」から町長に補助金に関する答申がされています。同対法が2002年に廃止され、同和行政の残存事業として委託事業として行われてきた「NPO委託料（上但馬団地憩いの家運営管理費関係）」「NPO委託料（解放会館）」「地域人権学習リーダー育成事業（教育委員会）」などについては検討されています。これでは仕分け委員会の見識が問われるのではないのでしょうか。

三宅町
池田年夫



情報

寒い日が続いていきますが変わり有りませんか。今週末からは三月です。日増しに温かくなつて行く時期ですから、もう少しばらぐの辛抱ですね。

さて、日々の暮らしで何かにつけて情報を得る事は欠かせませんよね。で、オンラインピック報道を見ていて感じた事なんです。何かの基準で注目する選手を決めて、我々はその報道を見て、その人物を知る事になるんだと思います。事前の報道で標準が充たつて無かつた選手（もちろんその分野では第一人者）が、メダルを執った途端にぱあつと照準が充てられ、その存在を知らされる事が往々にして起こりがちですよね。

これ、各々の競技と選

手について素朴に紹介していたら、純粹に競技と競技者を知れるし応援出来るのではと、何時も思っています。

報道では、NHKの榎井勝人会長の就任記者会見での発言が波紋を呼んでいます。この方の姿勢は、やっぱり偏っていますよね。世界のメデイアも揃って指摘しているように、公正不変で有らねばならないのが報道の原則ですから、政府の広報機関とは違うんですからね。

この二つ次元は違いますが、情報を受け取る者としては、報道の在り方で左右される事が心配です。

川西町議会議員
芝和也



学校給食のお話

数日前、広陵町の2名の議員さんと奈良市の東登美ヶ丘小学校に栄養士さんのお話を聞かせて貰いに伺いました。

この吉田栄養士さんは県の学校給食栄養研究会の会長もされていて、お話の内容、語り方などを伺っているとかかなり聡明な方という印象でした。広陵町は中学校給食を実現することは決まっています。どんな方式ですかを検討しているとのこと。（自校式やセンター式などがある）

吉田栄養士さんは、「センター方式は万が一、事故が起こったら全校の給食が駄目になる、経費の面からも結局は自校式の方が安くなる」と言われます。

また国民栄養調査では、現代の子どもはカルシウ

ム、鉄分、ビタミンなどが不足しているそうです。特に中学生が問題だと言われました。そんな事を専門家から聞くと尚更、田原本の中学生に給食を食べさせてあげたいと思えました。

そして、食物アレルギーの子どもは増えて来ているとのこと。また「地場産物の食材を取り入れたら、子どもたちは生産者や生産過程を知り、給食の残食はぐっと減った」と話され、本当に子どもたちの心と体を大切に思っ下さっている事が伝わってきました。学校を後にする時、給食室からダシのいい匂いがして来て、子どもたちの笑顔が見えるよかったです。

田原本議会議員
森良子



唐古・鍵遺跡整備委員会

大雪の日、唐古・鍵遺跡整備委員会が開かれました。兵庫県立考古学博物館長、奈文研究員、教育大学教授、文化庁文化財調査官、唐古自治会長、鍵自治会長などで構成されている整備検討委員会に当て職として参加させていただきました。

最初で最後の出席にならうと思、ちよつと発言させていただきました。「唐古・鍵遺跡は、田原本町民のアイデンティティー。今の説明では大型建物がどのよう再現されるのかわからない。本物の迫力を感じてもらうために、直径八〇センチ高さ五尺の柱を再現してはど

うか？」「公園に来た人にこれはすごい！と感じてもらうために、竪穴式住居の建設体験、火熾し炊飯体験など、基本計画にあるように、弥生の追体験ができる仕掛け、場所を確保すべし」など公園の活用について発言しました。

その後、「弥生時代の植物を提案しましたが、盛り土とその下の土の堅さが違うので、大木よりクヌギやコナラなどの木が高く。刈り込み等の計画が必要では」と問題提起がされました。あまり突っ込んだ検討がされていないのでは？

田原本議会議員
吉田容工

